

入選

ホカホカした気持ち

熊本県 熊本大学教育学部附属小学校

三年 清河 真咲

ぼくは、はずかしいことが苦手です。

はずかしいことって何かと聞かれると、すごくこまります。多すぎるからです。あいさつをするのも、きんちょうします。朝、学校に行くとき、エレベーターにだれものってこないといいな、と思ったりもします。

ある日、お母さんと買い物に出かけました。にぎやかなお店が集まっているところを歩いているとき、つえをついたおばあさんが、歩いている人に話しかけていました。

何かを話しかけているように見えたけれど、だれも止まっていません。もう少し近づくと、ぼくたちに話しかけてきました。ぼくは、みんなが立ち止まらなかった意味がわかりました。

おばあさんの声が、とても小さいのです。にぎやかなお店の音楽で、おばあさんの声は消えていました。ぼくは、遠くからおばあさんを見ていたから、話しかけられていることがわかったので、立ち止まりました。

「ごによごによ……。」

2回目でも、お母さんは聞こえていないみたいで、ぼくだけが聞きとることができました。でも、それが大問題です。ぼくにしか聞こえていないので、ぼくが答えなくてははいけません。

心ぞうがドクドクと、大音量でなっているのが歩いているみんなに聞こえてしまいそうです。

心の中では、(どうしよう、聞こえなかったことにしようかな) と思いました。

そのとき、ぼくはいろいろなことを考えました。おばあさんが聞いているのは、デパートの場所です。おばあさんは、デパートの方から歩いてきました。きっと、ここでぼくが教えることができなかつたら、おばあさんは、つえをついて、ずっと遠くまで歩いていってしまうかもしれない。すごく大変だろうな。

「デパートは、あっちの方です。おばあさんが今歩いてきた道を、ずっともどっていくと大きなたて物があります。あの赤いちょうちんを目じるしに、行ってみてください。」

口が動きました。ぼくはおばあさんに聞こえるように、大きな声で指をさしながら、説明することができました。

おばあさんは、何回も「ありがとう」とお礼を言って、ゆっくりと歩いていきました。買いものをしながら、気になって見てみると、ぶじにデパートに行けていました。

きんちょうと、はずかしい気持ちがおさまると、ぼくの心の中はホカホカしたような気持ちになっていました。だれかがよるこんでくれること、もっと見つけてみようかな。そう思うようになって、ぼくは毎日小さなことを続けています。

ぼくのホカホカした気持ちが伝わって、みんながしあわせな気持ちになるといいなと思います。